

「公共図書館における子育て支援サービスとその効果」

山浦 陽子

このレポートでは、公共図書館における課題解決支援サービスについて、子育て支援を挙げて考えてみたい。

平成 15 (2003) 年に少子化社会対策基本法 (注 1)、次世代育成支援対策推進法 (注 2) が制定され、子育てを社会全体で支えていこうという姿勢が示された。図書館で子育て支援を行っていくことは、こういった国の姿勢に合致するものであるし、図書館の資料や機能を活用することで、利用者に喜ばれるサービスを提供することが可能だと思ふからである。

子育て支援と言った場合、事業のあり方は「地域子育て支援」、「保育」、「経済的支援」に大別される (注 3)。この中で、図書館でできることは「地域子育て支援」であり、情報を提供していくことがサービスの中心となる。

公共図書館には児童コーナーが設けられ、お話し会などが行われている所も多い。絵本の他にも、育児書など、子育てに役立つ資料も多く所蔵しているはずである。現在、図書館は子育て支援施設とは見なされていないが、意識せずとも、これまでも子育て支援が行われて来ているのである。このような実績の上に、さらに課題解決に役立てられるような情報提供の仕組みを作っていく。そうすることで、情報のプロとしての、図書館ならではの子育て支援サービスが提供できるようになるのではないだろうか。

では、実際に公共図書館ではどのような子育て支援サービスが提供できるだろうか。ここでは、主に入園前の子どもを育てる親への支援に絞って考えてみたい。子どもが入園、入学すれば、地域とのつながりもできてくるし、園や学校から情報を得ることもできる。しかし、入園前の子どもを持つ家庭では情報入手の経路が限られ、自分から情報を求めない限り、情報を手に入れにくい状況にあると思うからである。

ここからは、考えられる子育て支援サービスについて、提供方法や目的・効果、資料・情報の構築方法、職員に必要とされる知識などを含めてそれぞれ詳しく見ていく。

(a) 児童コーナーに子育て関連の書棚を設置し、子育て支援コーナーを開設する

小さい子どもを連れた親が気がねなく情報を探せるよう、児童コーナーに書棚を設置し、子育て関連の図書・雑誌を配置する。こうすることで、子連れで館内をあちこち歩き回らなくても、効率よく必要な資料を手に入れることができる。

これまで絵本の利用が中心だった方にも、育児の課題解決に役立つ資料へと関心を広げてもらえる。また、子育て家庭にやさしい図書館という印象とともに、課題解決のための図書館利用という、新しい図書館像を印象付けられる。

情報の構築方法については、普段からの選書が大切になる。司書には、いたずらに親を惑わせるような情報ではなく、親が自分で考え、判断できるための良質な情報を含む資料を揃える力が求められる。

(b) 情報コーナーを設ける

市内の子育て支援施設や公民館などのチラシ、保健センターの資料、子育てサークルの案内などを集め、自由に持ち帰ってもらえるようにしておく。必要に応じ、閲覧用としてファイルにまとめておく。

広報や各課の子育て関連情報、保育園や幼稚園の情報なども資料としてまとめておく。

他に、子育て関連の新聞記事をスクラップブックにまとめておく。

このコーナーは主に地元の情報が得られる場所となる。インターネットには載らないような情報も、ここに来ればまとめて得られるようにしたい。地域の子育ての総合案内所とも言えるようなコーナーを目指し、資料を収集していきたい。

そのためには、役所の子育てに関係する各課、保育園や幼稚園、子育て支援施設や子育てサークルなどとこまめに連絡を取り、チラシや情報を受け取ることが必要になる。新聞に目を通し、子育て関連の記事を集めることも欠かせない。

(c) テーマ別の資料の展示やリスト作りを行う

期間を定め、その時期にあったテーマや、関心の高いテーマで資料の展示を行う。

また、その展示リストを作っておき、展示期間が終わったあとも利用者に活用してもらえるようにしておく。

子育て中に必要な情報は、授乳、離乳食、トイレトレーニングなどの基本的な育児の技術、子どもの病気や予防接種、発達、しつけ、人間関係など、非常に幅広い。親と子の生活全般にわたっていると言えるだろう。その中からテーマを絞って展示することで、課題解決のための図書館の役割をよりいっそうアピールすることができる。

そのためには、子育てにはどのような課題があり、利用者が何を求めているか、司書が常日頃から把握しておく必要がある。自館の資料をよく知っておくことも必要になる。

(d) レファレンスサービス・レフェラルサービス

できれば子育て支援コーナーに担当の司書が常駐し、利用者が求めることにすぐに対応できるようにしていればよいと思う。

子育て支援としてのレファレンスサービスを考えた場合、コーナーの利用者に対して、相手に負担にならない程度に、司書の側から話しかけてみてもよいのではないかなと思う。

特に入園前の子どもを抱えている親は、地域や社会とのつながりも薄くなりがちである。原田正文氏らの調査によれば、近所に普段世間話をしたり、赤ちゃんの話をしたりする相手がない親も2~3割いるという(注4)。そういった親にしてみれば、図書館で司書と何げない会話を交わすことが、ホッと一息つける機会になるのではないかな。子育て中の親を孤立させないためにも、あいさつや声かけによって、「よく来てくださいましたね」、「何でも聞いてください、力になりますよ」という気持ちを伝えていくことが大切であると思う。ちょっとした声かけか

ら信頼関係を築いていくことで、利用者から質問もしてもらえるようになるのではないかと。

レファレンスサービスは、一般の利用者にはまだまだなじみが薄いと思うので、こうして潜在的な需要を掘り起こしながら PR していったらどうか。親の孤立を防ぎながら課題解決支援もでき、図書館の役割もアピールできる、効果的なサービスとなるのではないだろうか。

レフェラルサービスについては、レファレンスを受け付ける中で、図書館だけでは対応できない場合、関係部署や専門の機関の紹介をする。(b)の情報コーナーの部分で挙げたように、普段からチラシや情報のやり取りをするなどして、連携を密にしておくことが必要になる。お互いに顔の見える関係であればなおよい。

(e) 講座の開催

課題解決支援のための講座としては、司書自身が講師を務め、図書館での資料の探し方やインターネット上での情報検索の仕方を教えたり、子育てに役立つサイトの紹介をするなどの内容が考えられる。利用者が、自分の求める情報を自分で得られるよう支援することはもちろん大切である。

しかしそれだけで終わらず、もう一步踏み込んで考えてみたい。本当に大切なのは、情報を得て、そこからどう判断し、よりよい問題解決につなげていくかではないだろうか。知識や情報を得られれば解決できる問題もある。しかし、子育てには正解のない問題、親自身が判断しなければならぬ問題もたくさんある。そういった問題にどう対処していくか、親自身が問題解決能力を高められるような支援をしていくことが、真の子育て支援と言えるのではないだろうか。

その点、カナダ政府による親支援のための「ノーバディズ・パーフェクト」プログラムは非常に参考になる(注5)。ファシリテーターの立ち会いのもと、テキストを参考に、親同士が決めたテーマにそって話し合いをしていくのである。

参加者同士が支えあいながら力をつけていくこのような機会を、子育て支援サービスとして提供してみたい。

(f) インターネット上での情報の提供

普段から連携している子育て関連の施設やサークルの情報、地域の基本的な子育ての情報などを集めて提供したり、子育てに役立つサイトへのリンク集を作ることもできる。

しかし、せっかくなので、図書館のサイト内に子育て支援コーナーのページを設け、積極的にコーナーからの情報発信も行いたい。

香川県立図書館の子育て支援コーナーのページ(注6)には、コーナーの紹介から始まって、企画展示のブックリスト、子育て支援通信なども掲載されている。特に、毎月発行される子育て支援コーナー通信は興味深い。司書自身の子育てのエピソードと共に司書のおすすめ本が紹介されていたり、コーナーの新书推荐が紹介されていたりする。蔵書検索の仕方が紹介されている連載コーナーもある。手描きのイラストも温かく、親しみやすい。実際に図書館に足を運び、本を借りたくなるような紙面であり、ぜひ見習いたい。

以上、私の取り組んでみたい課題解決支援サービスとして子育て支援を挙げ、その内容について考えて来た。最後にまとめとして、図書館で子育て支援サービスを行うことで得られる効果を挙げておきたい。

- ・必要な情報や学習の機会を得ることで、子育て家庭の問題解決能力が高まる。
- ・図書館に足を運んでもらうことで、孤立して子育てしている人を減らすことができる。そうすることで、虐待防止など、次世代を担う子どもの健全育成にもつながる。
- ・子育て家庭にやさしいまちという PR ができ、若年層の定住促進につながる。
- ・図書館の来館者増
- ・課題解決支援のための図書館という、新しい図書館像を印象付けられる。図書館の存在価値が高まり、予算増や職員の待遇の改善につながる。
- ・利用者に喜んでもらえることで、職員の意欲が上がり、能力の向上も期待できる。

子育て支援といえども、その効果は子育て家庭だけにとどまらないのである。地域社会にも良い効果をもたらし、そればかりか、自分たち図書館員にも返ってくるものなのである。

そう考えると、課題解決支援サービスはこれからの図書館員にとって、非常にやりがいがあり、かつ重要な仕事になって来ると言えるのではないだろうか。

参考文献・引用文献

- (注1) 厚生労働省 (<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/shousika-honbun.html>)
2010.3.10 取得
- (注2) 厚生労働省 (<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/pdf/jisedai-suisinhou.pdf>)
2010.3.10 取得
- (注3) 次世代育成支援システム研究会・監修 『社会連帯による次世代育成支援に向けて 次世代育成支援施策の在り方に関する研究会報告書』2003年 ぎょうせい p4~6
- (注4) 2003年、4ヵ月、10ヵ月、1歳半、3歳の乳幼児を持つ母親らを対象に兵庫で調査。
大豆生田啓友・編著 『50のキーワードでわかる子育て支援&子育てネットワーク』
2007年 フレーベル館 p16
- (注5) 伊志嶺美津子・新澤誠治 『21世紀の子育て支援・家庭支援 子育てを支える保育をめざして』2003年 フレーベル館 p94~100
- (注6) 子育て支援コーナー | 香川県立図書館 (http://www.library.pref.kagawa.jp/kgwlib_doc/kosodate/kosodate.html) 2010.3.11 取得
香川県立図書館の子育て支援コーナーについては、次の文献も参考にした。
大林直子「香川県立図書館の課題解決支援サービス 第一歩?は“子育て支援コーナー”」([『図書館雑誌』](#) Vol.104, No.2 2010.2 日本図書館協会)